

## 学校歯科医や地域の専門家と連携した歯科保健教育

～児童生徒及び保護者のニーズに寄り添って～

熊本県立荒尾支援学校

### はじめに

障がいのある児童生徒にとって、歯と口の健康を損なってしまうと全身の健康状態へ大きく影響を及ぼし、QOLの低下にもつながります。また、障がい特性により歯科受診や治療が困難な状況があります。本校でも、歯科検診の結果や学校歯科医の助言などから、歯みがきが不十分な児童生徒が多数いること、またアンケートより保護者は歯科受診に関して様々な悩みを抱えていることがわかりました。そこで、障がいのある児童生徒の自立に向けた歯・口の健康づくりについて学校全体で取り組むことにしました。今回は、学校歯科医や地域の専門家と連携した歯科保健教育を中心に紹介します。

### 歯みがき指導

～自分に合った歯みがき方法を習得するために～

#### 【 高等部一般学級での歯科保健教育 】

保健の授業において、障がいの程度に合わせて生徒を3グループに分け、下記のとおり歯科保健教育を実施しました。講師として、本校の学校歯科医と歯科衛生士、障害者歯科の専門家である大学教授をお招きし、生徒一人一人の歯みがきの様子を見ていただいた後、専門的な立場から個別に歯みがき指導をしてもらいました。

グループ	セルフケア班 (軽度)	ブラッシング班 (中等度)	エンジョイ班 (重度)
第1回	歯みがきの大切さを知ろう (グループワーク)	みがき残しを確認しよう (染め出し)	口の中を見てみよう (実態調査)
第2回	正しい歯みがきの仕方 (染め出し・アンケート)	ブラッシング名人を目指そう (染め出し・写真比較)	うがい・歯みがきの仕方 (個別指導)
専門家	歯科衛生士	学校歯科医・歯科衛生士	大学教授



学校歯科医・歯科衛生士による個別指導

大学教授による個別指導

授業後には、「みがいたつもりでも、意外と汚れてるなぁ…」「歯と歯の間やくぼんだ部分を丁寧にみがこう」などの感想がありました。実際に、以前より丁寧に、楽しく歯みがきする姿も見られるようになり、「先生、歯みがきしましたよ!」と報告する生徒がいました。また、保護者からの連絡帳の中に、「自宅でも歯みがきをするようになった」と記入があり、歯みがきに関する行動変容が見られたケースもありました。

## 【 小学部一般学級での親子歯みがき教室 】



大学教授による講話

個別の歯みがき指導

授業参観に合わせ、大学教授を講師に招いた親子歯みがき教室を開催しました。事前アンケートの結果を基に、日常の歯みがきでの困りごとや質問に丁寧に対応していただき、参加者の約95%が「満足した・やや満足した」と回答がありました。「正しいみがき方、子どもとの関わり方を教わることができました」などの感想が寄せられました。

## 研修会

## ～生涯にわたる歯と口の健康づくりのために～

障がい特性のある児童生徒の歯・口の健康づくりには、児童生徒の指導・支援者である職員や保護者の協力は不可欠です。そこで、大学教授をお招きして、「セルフケアの支援」をテーマに職員研修を、「QOLを支える歯と口の健康」をテーマに保護者研修会をそれぞれ実施しました。



保護者研修会

## 【職員研修後のアンケート結果】

事前アンケートの結果に基づいた内容だったのでよかった

歯ブラシ選びのポイントが参考になった



嫌がる原因を探り、言葉かけやみがき方などを変えていきたい

保護者と共通理解のもとで実践したい

痛いと感じにくいみがき方、口の開け方がわかった

歯みがきを嫌がる要因やその対応、介助者による仕上げみがきの方法、歯ブラシの選び方など、障がい特性を踏まえた内容で詳しく話していただきました。研修後は、それぞれの実態に合わせた指導・支援の成果が見られ、児童生徒がより丁寧に工夫して歯みがきをする姿が見られました。

## おわりに

学校全体で歯・口の健康づくりに取り組んだことで、児童生徒だけでなく、教職員や保護者の意識も高まり、専門的な知識や具体的で実践可能な歯みがきの技術の習得ができました。今後も、児童生徒及び保護者のニーズに寄り添いながら、生涯にわたる歯・口の健康づくりのために取り組んでいきます。